

## 7月1日現在の就職活動状況

2014年度  
Vol. 8

夏場を迎え、就職採用戦線は事実上の後半戦へと突入した。夏採用・秋採用の募集も盛んに行われている。7月1日現在の学生モニターの就職活動状況について調査したところ、内定率は前年同時期を上回り、好調なペースで推移していることが分かった。

**1. 7月1日現在の内定状況**

- 内定率は76.0%。前年同時期(70.8%)より5.2ポイント上昇
- 内定者のうち、就職先を決定し活動を終了したのは81.1%。

**2. 7月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数**

- 全体的な活動量は前年と同水準。「エントリー」93.1社、「企業単独セミナー」25.6社

**3. 就職活動継続者の状況**

- 新たな企業を探す手段は、「就職情報サイト」88.0%、「大学の求人票」40.7%

**4. 未内定者が活動の中心としている企業規模**

- 現時点で活動の中心は、「規模にこだわらずに活動」が65.9%

**5. 就職決定企業の規模**

- 従業員1000人以上の大手企業への就職が67.5%。前年(65.4%)より増加

**6. 就職決定企業の業界**

- 文系は「銀行」「情報処理」「建設・不動産」。理系は「情報処理」「医薬品」「電子・電機」

**7. 就職決定企業へのエントリー時期**

- 「12月」が56.4%と、集中度が増大。「1月」には7割超え

**8. 就職決定企業を知ったきっかけ**

- 「就職情報サイト」が42.9%で最多。「合同説明会」等のイベントが2割強

**9. Uターン就職の状況**

- 「Uターン就職者」は19.5%。前年(19.3%)とほぼ同率

**10. 理系学生の就職決定方法**

- 「学校推薦」は、修士20.3%、学部9.7%。「自由応募」は、修士63.4%、学部79.8%

**11. 就職活動の難易度**

- 「厳しい」(50.0%)は年々減少。「やさしい」は22.5%

## 《調査概要》

調査対象：2014年3月卒業予定の全国の大学4年生（理系は大学院修士課程2年生含む）  
 回答数：1,284人（文系男子432人、文系女子359人、理系男子346人、理系女子147人）  
 調査方法：インターネット調査法  
 調査期間：2013年7月1日～8日  
 サンプルング：日経就職ナビ2014就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先：03-4316-5505/株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。  
 日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

### 1. 7月1日現在の内定状況

7月1日現在の学生モニターの内定率は76.0%。先月調査（6月1日時点）よりも8.9ポイント伸び、7割を超えた。6月時点での内定率は対前年4.8ポイント増だったが、この7月はその差が5.2ポイントに開き、夏場を迎えてさらに勢いは増している。とりわけ文系女子（75.2%）は、6月までは他の属性に比べ内定率が低かったが、この1カ月で11.7ポイント伸びており、文系男子を上回る水準となった。

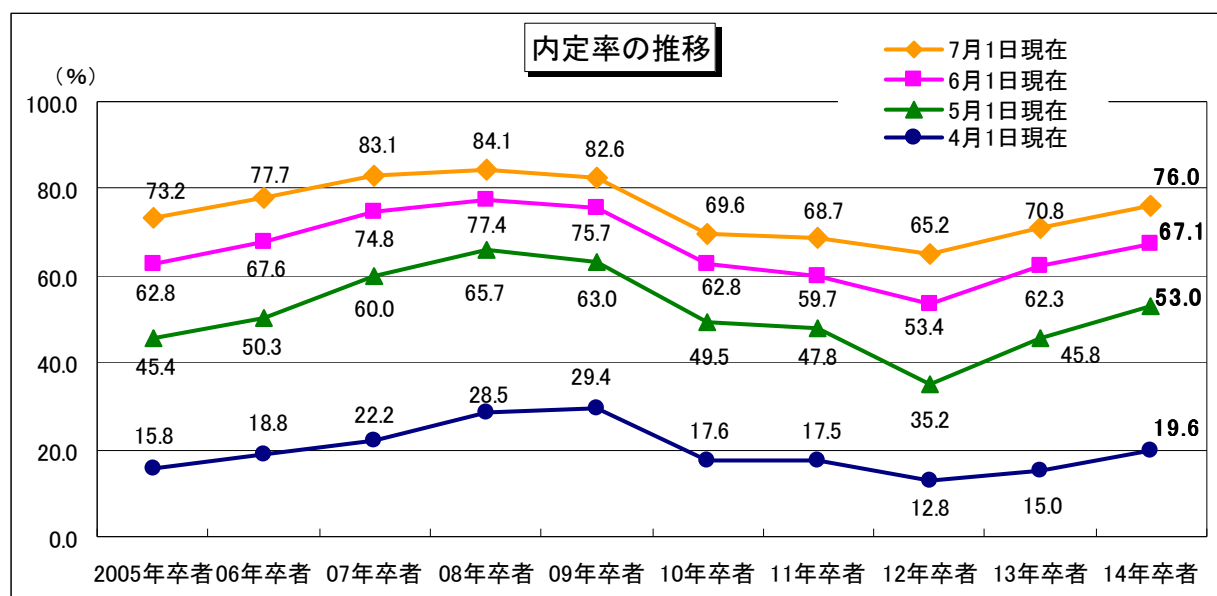
一方で、内定取得学生のうち就職活動を終了したのは81.1%で、文理ともに女子の終了率が低い。内定率は男子に追いついても、内定企業への満足度が低いと推測され、厳しさが残る。

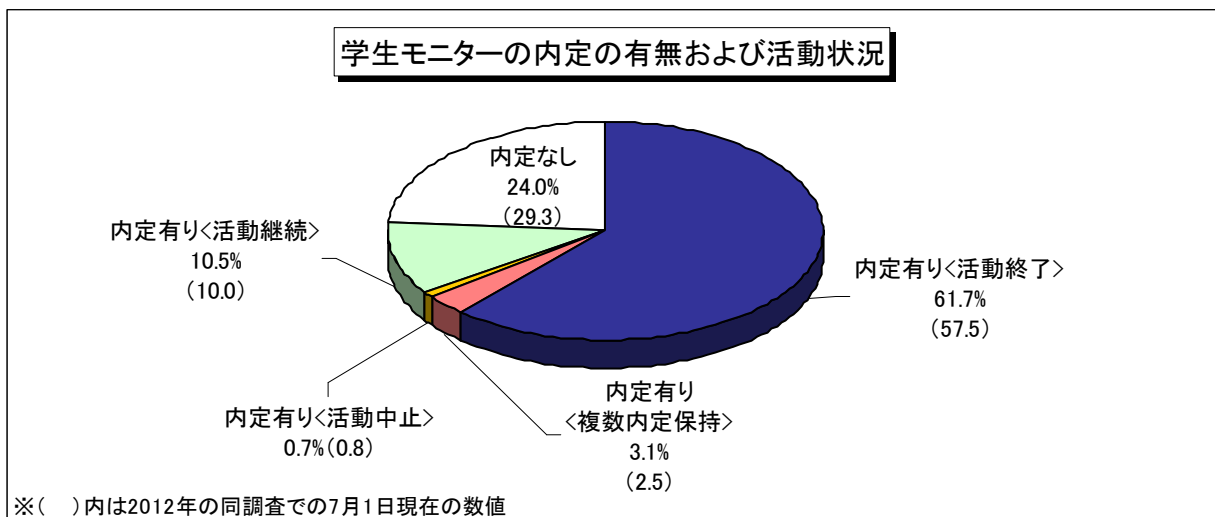
本調査時点での就職先決定者の割合は、モニター全体の61.7%を占めている（次ページ円グラフ）。昨年（57.5%）よりは高いが、平均的な就活生よりも1~2割程度内定率が高いと言われる就職活動モニターでも約4割が進路を決めておらず、就職戦線は今年も長期化が予想される。

**7月1日現在の内定の状況** \*「内定」には、内々定を含む (%)

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		76.0 (70.8)	73.8 (71.7)	75.2 (67.5)	79.2 (71.1)	76.9 (75.2)
内定なし		24.0 (29.3)	26.2 (28.3)	24.8 (32.5)	20.8 (28.9)	23.1 (24.8)
内定社数（平均/社）		2.0 (1.9)	2.2 (2.0)	1.8 (1.8)	1.9 (1.8)	1.9 (1.6)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	81.1 (81.3)	80.9 (78.4)	76.3 (85.2)	86.1 (80.7)	81.4 (83.0)
	終了したが複数内定保持	4.1 (3.5)	5.3 (5.0)	3.0 (2.8)	3.3 (2.5)	5.3 (3.4)
	進学などの理由で活動を中止	0.9 (1.1)	0.3 (0.7)	0.4 (0.9)	1.8 (2.0)	1.8 (0.0)
	就職活動継続	13.8 (14.1)	13.5 (15.9)	20.4 (11.1)	8.8 (14.8)	11.5 (13.6)

※( )内は2012年の同調査での7月1日現在の数値





## 2. 7月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数

7月1日現在、一人あたりのエントリー社数は平均で93.1社。先月調査と同様、前年同時期をわずかに上回る水準で推移した結果、2年ぶりに90社を超えた。セミナー参加やエントリーシート提出、選考試験受験数などについては、前年との大きな変化は見られない。

今回「OB・OG訪問」について、その紹介ルートを探っているが、最も多かったのは「学校関係ルート」(2.9人)であり、一時話題を集めた「ソー活」を実践しての「ソーシャルメディアルート」は稀なケースであるようだ。

### 7月1日現在の就職活動の状況

	全体	今年6月	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー (社)	93.1	89.6	89.1	99.7	114.1	67.0	83.2
今後のエントリー予定 (社)	4.5	7.7	6.3	5.1	5.3	3.1	3.2
セミナー・説明会参加 (社)	54.9	53.2	56.4	60.0	63.2	44.6	44.0
企業単独開催のもの (社)	25.6	24.6	26.1	29.9	29.3	19.5	18.7
合同開催のもの (社)	16.2	15.6	17.5	17.0	19.2	13.2	13.2
学内開催のもの (社)	13.1	13.0	12.8	13.1	14.7	11.9	12.0
OB・OG訪問人数 (人)	5.4	4.7	5.2	7.2	4.1	4.8	4.0
人事部ルート (人)	1.4	—	1.3	2.2	0.9	1.1	0.9
学校関係ルート (人)	2.9	—	2.4	3.8	2.2	2.8	2.0
ソーシャルメディアルート (人)	0.3	—	0.3	0.2	0.3	0.3	0.3
それ以外のルート (人)	0.8	—	1.2	1.1	0.7	0.6	0.7
エントリーシート提出 (社)	24.4	23.6	23.6	26.4	28.4	18.0	23.6
選考試験の受験社数 (社)	31.9	30.1	32.1	36.3	34.0	25.2	29.0
筆記・WEB試験 (社)	15.8	15.0	16.0	17.8	17.4	12.3	14.3
面接試験 (社)	11.0	10.3	11.4	12.7	11.5	8.8	9.7
グループディスカッション (社)	5.1	4.8	4.8	5.9	5.1	4.0	5.0
工場見学社数 (社)	2.8	—	2.9	—	—	2.9	2.5
研究所見学社数 (社)	2.0	—	2.0	—	—	2.0	2.0

※「人事部ルート」=企業に直接依頼して紹介してもらうルート。「学校関係ルート」=キャリアセンター、ゼミ、部活動など学校関係のツテ。  
「ソーシャルメディアルート」=SNSなどを通じて知り合った人のツテ。「それ以外のルート」=上記以外(アルバイト先、親戚筋など)

### 3. 就職活動継続者の状況

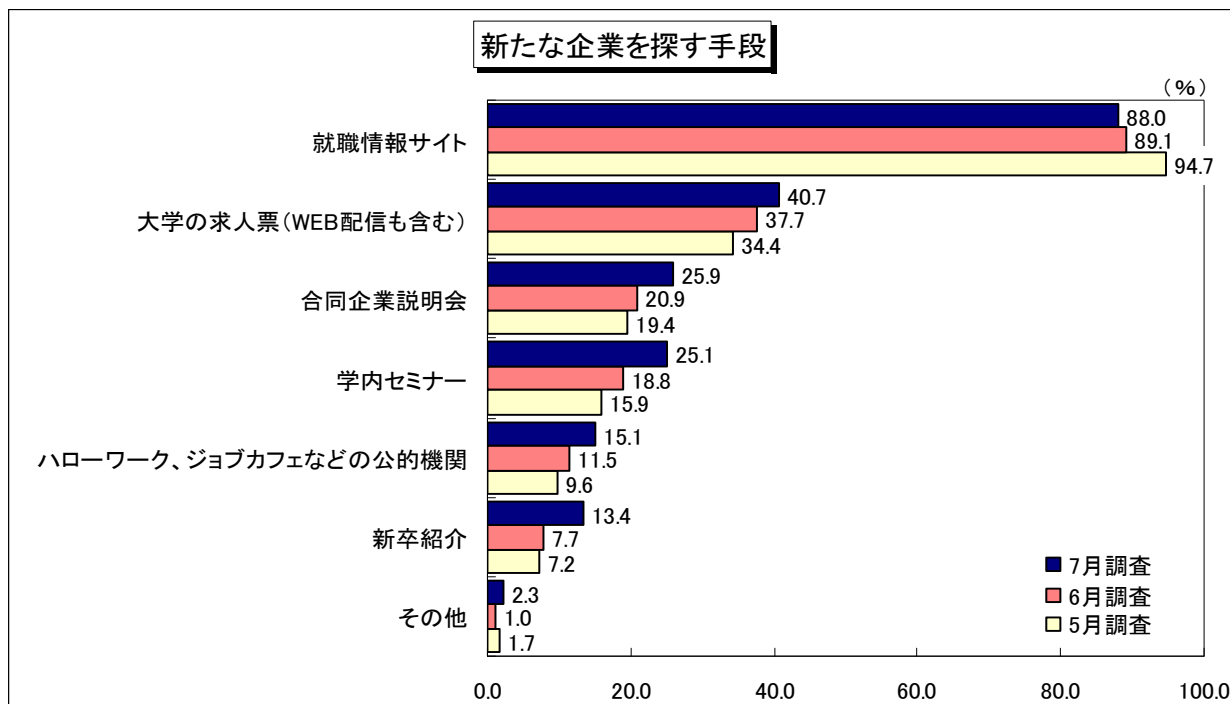
すでに内定がある者も含め、7月1日現在で就職活動を継続している学生（モニター全体の34.5%）に、選考中およびこれから受験する企業（持ち駒）の数を尋ねた。平均して3.1社と先月調査（3.2社）とあまり変わらないが、前年同時期（2.7社）より0.4社多かった。

新たな企業を探していると回答した者（活動継続者の79.2%）に、その手段を尋ねたところ、「就職情報サイト」が88.0%で、5月や6月からポイントは下がったものの、依然最多となっている。一方、就職情報サイト以外のすべての項目で、5月以降のポイントが上昇している。時間の経過とともに採用継続企業が減っていく中で、応募を受け付けている企業を探す有効な手段として、これらを積極的に活用する学生が増えている様子が見える。

選考進行中および今後受ける企業(持ち駒)社数

	全 体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
7月1日現在	3.1	2.7	4.1	3.0	2.1	1.7
6月1日現在	3.2	3.4	3.2	3.5	2.9	2.8
5月1日現在	5.0	5.1	5.1	5.5	4.0	4.8
4月1日現在	8.4	8.6	9.3	9.9	6.3	6.7

(社)

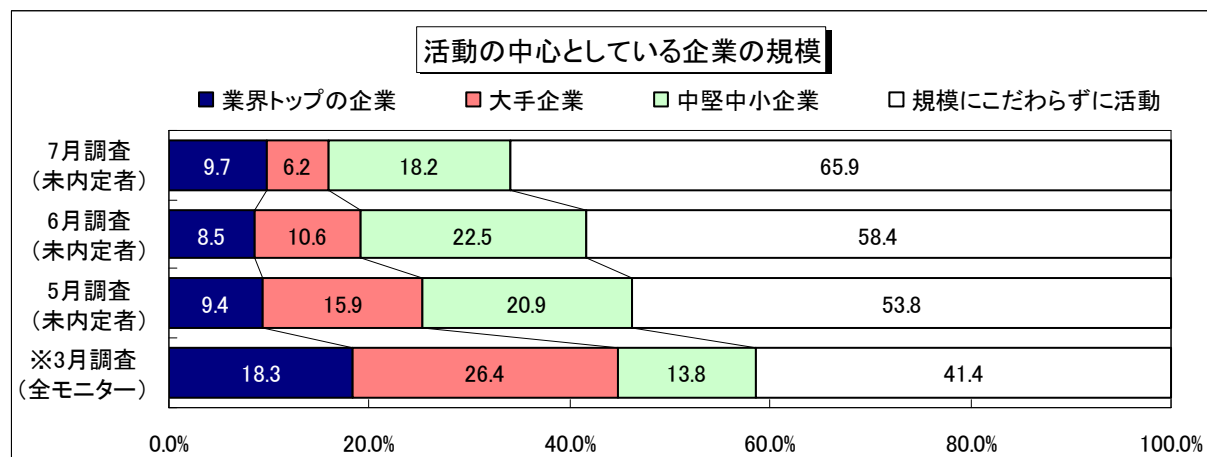


#### ■就職活動継続者のコメント

- 12月から就職活動を始めたとはいえ、取り組み方が本当に甘かったと思う。もっと早い段階で多くの企業説明会に参加し、より広い視点をもてたらよかった。自分は〇〇業界がいいという思い込みが早く捨てられたらよかった。 <文系女子>
- 初めのうちに持ち駒が全て上手くいっていても、常に新しい持ち駒を探すことをやめてはいけないと感じた。 <文系女子>
- 周りでは内定を決めた人が半数になったので正直焦っている。しかし妥協したくない自分がいる。 <理系男子>
- 本気で何をしたいのかを見つめるようになった。 <理系女子>
- 結果が出ず、苦戦を強いられていますが、最後まで粘り強く頑張りたいと思います。 <文系男子>

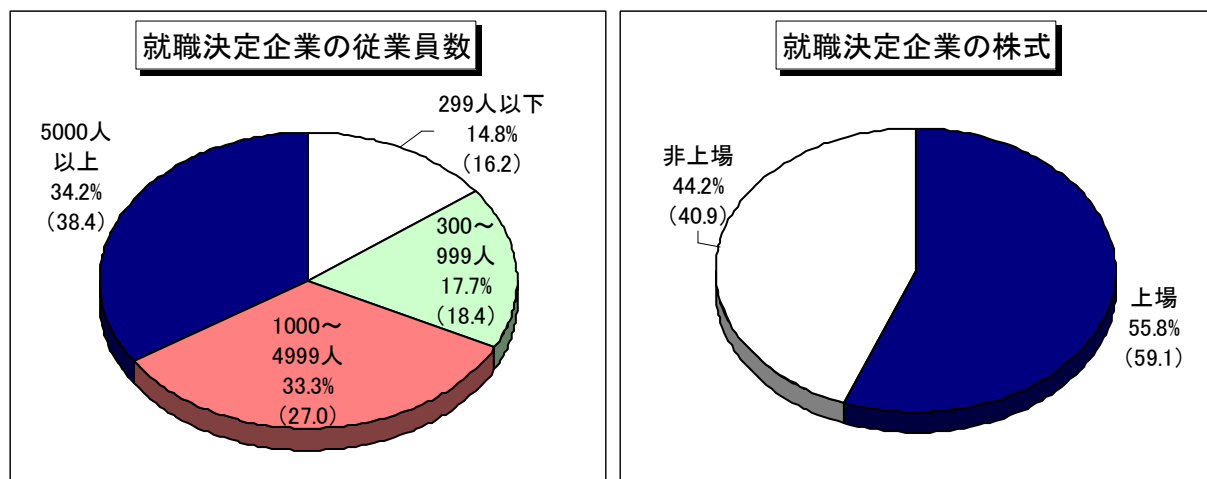
#### 4. 未内定者が活動の中心としている企業規模

未内定者が活動の中心としている企業の規模を見ると、「規模にこだわらずに活動」という回答が5月時点では53.8%だったのが、この7月には65.9%と6割を超え、就職先選びにおける「企業規模」の重要性が徐々に薄れている様子が見てとれる。だが一方で、「業界トップ」を活動の中心とする割合が9.7%と先月・先々月より伸びている。優良企業の夏・秋採用を睨んでの回答ではないかと推測される。



#### 5. 就職決定企業の規模

就職活動終了者（モニター全体の61.7%）に、就職決定企業について尋ねた。従業員数が「1000～4999人」と「5000人以上」の割合を合計すると67.5%となり、前年（65.4%）を上回った。採用人数が比較的少ない中小企業では、大手企業の選考が一段落した後に活動を本格化するケースも多いため、今後は中小企業の比率が高まっていくと見られる。



※( )内は2012年の同調査での7月1日現在の数値

### 6. 就職決定企業の業界

就職決定企業の業界と、就職活動前(11月下旬調査時)に志望していた業界を、多い順に並べてみた。

文系においては、就職活動前に志望していた業界と、実際に決定した業界の1位はともに「銀行」で、人気の強さを裏付ける結果となった。理系においては、就職活動前の志望では7位だった「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」が、就職決定業界では1位と大きく伸びている。同業界は、文系でも大幅に順位を上げている(15位→2位)。採用数の多い業界であるため、就職活動を進める中で就職先として意識していくケースが多いのだろうと思われる。

逆に大きく順位を下げた業界としては、「水産・食品」や「商社(総合)」など、人気の割に採用数が少ない業界や、「官公庁・団体」など、採用試験の時期が遅い業界がある。

#### 文系

#### 理系

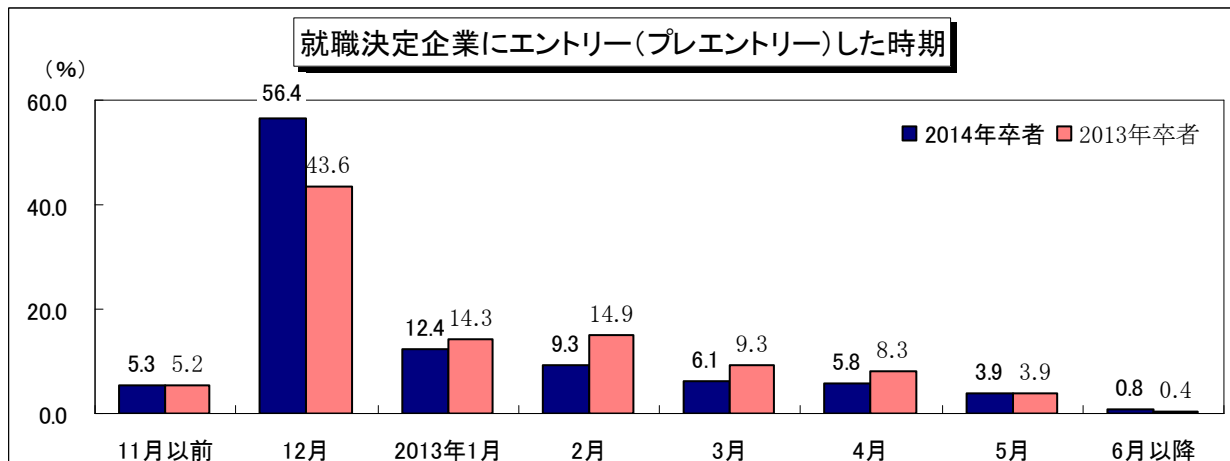
プレ期の志望業界 (第1志望)		%	就職決定企業の 業界		%
1位	銀行	15.3	1位	銀行	14.2
2位	マスコミ	11.8	2位	情報処理・ソフトウ エア・ゲームソフト	8.6
3位	水産・食品	8.6	3位	建設・住宅・不動産	6.7
4位	運輸・倉庫	7.0	4位	運輸・倉庫	6.3
5位	商社(総合)	6.3	5位	マスコミ	5.8
6位	官公庁・団体	5.2	6位	保険	5.2
7位	ホテル・旅行	4.8	7位	商社(専門)	4.3
8位	建設・住宅・不動産	4.1	8位	自動車・輸送用機 器	3.7
9位	医薬品・医療関連・ 化粧品	3.7	9位	信用金庫・労働金 庫・信用組合	3.2
10位	調査・コンサルタン ト	2.6		証券・投信・投資顧 問	3.2
11位	商社(専門)	2.5		スーパー・コンビニ エンス	3.2
12位	保険	2.4	12位	素材・化学	3.0
13位	エネルギー	2.1		電子・電機	3.0
14位	エンターテインメン ト	2.0		通信関連	3.0
15位	自動車・輸送用機 器	1.9	15位	機械・プラントエン 지니어リング	2.6
	OA機器・家具・ス ポーツ・玩具他	1.9	16位	医薬品・医療関連・ 化粧品	2.4
	教育	1.9		エネルギー	2.4
	情報処理・ソフトウ エア・ゲームソフト	1.9	18位	水産・食品	1.9
20位	素材・化学	1.7	19位	調査・コンサルタン ト	1.7
	情報・インターネッ トサービス	1.7		官公庁・団体	1.7

プレ期の志望業界 (第1志望)		%	就職決定企業の 業界		%
1位	医薬品・医療関連・ 化粧品	12.3	1位	情報処理・ソフトウ エア・ゲームソフト	12.2
2位	水産・食品	12.0	2位	医薬品・医療関連・ 化粧品	10.7
3位	素材・化学	8.5	3位	電子・電機	9.5
4位	電子・電機	7.8	4位	機械・プラントエン 지니어リング	7.6
5位	建設・住宅・不動産	6.1	5位	建設・住宅・不動産	7.3
6位	官公庁・団体	5.6	6位	自動車・輸送用機 器	5.8
7位	情報処理・ソフトウ エア・ゲームソフト	5.2	7位	水産・食品	4.9
8位	情報・インターネッ トサービス	3.8	8位	運輸・倉庫	4.6
	機械・プラントエン 지니어リング	3.8	9位	素材・化学	4.3
10位	運輸・倉庫	3.7	10位	情報・インターネッ トサービス	4.0
11位	マスコミ	3.5	11位	銀行	3.0
12位	エネルギー	3.3	12位	精密機器・医療用 機器	2.7
	自動車・輸送用機 器	3.3		マスコミ	2.4
14位	銀行	2.8	13位	官公庁・団体	2.4
15位	商社(総合)	2.6	15位	調査・コンサルタン ト	1.8
16位	調査・コンサルタン ト	2.3	16位	商社(専門)	1.5
17位	精密機器・医療用 機器	2.1		通信関連	1.5
18位	保険	1.7		エネルギー	1.5
	通信関連	1.7		農業・林業・鉱業	1.5
20位	OA機器・家具・ス ポーツ・玩具他	1.2	20位	保険	1.2
				鉄鋼・非鉄・金属製 品	1.2
				OA機器・家具・ス ポーツ・玩具他	1.2
				ゴム・ガラス・セメン ト・セラミックス	1.2

※上位20業界を掲載

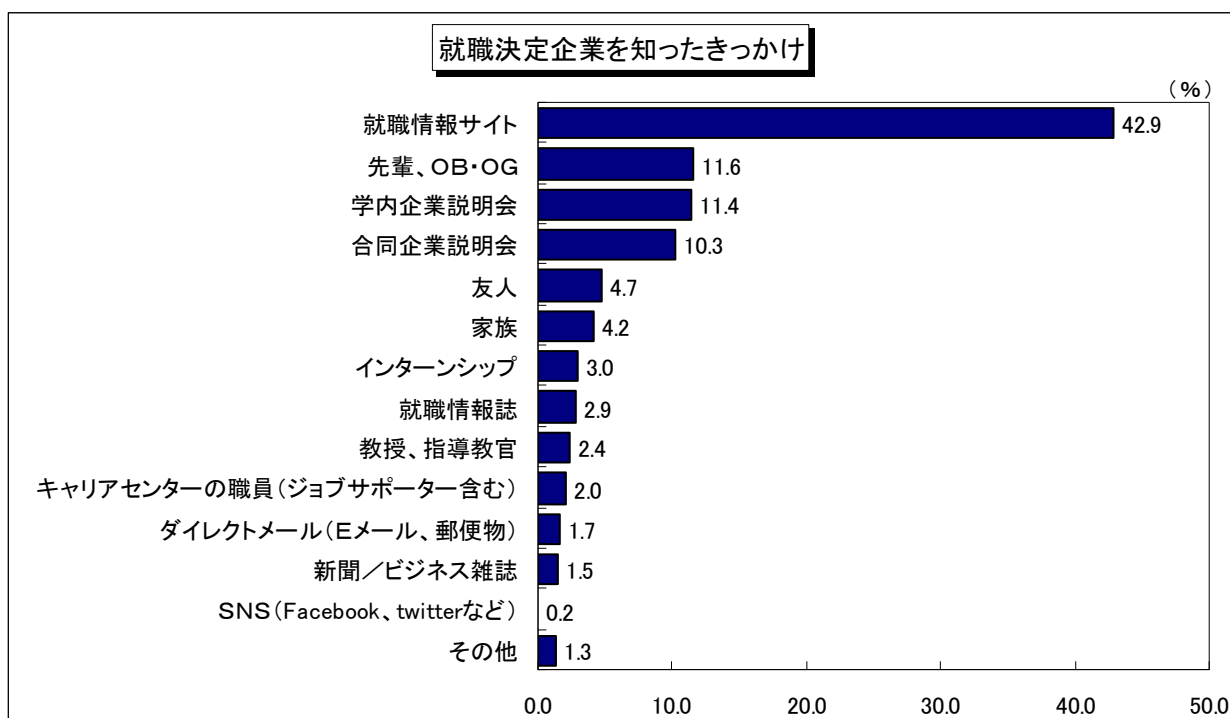
### 7. 就職決定企業へのエントリー時期

就職決定企業にいつごろエントリーをしたのか尋ねたところ、就職情報サイトのオープン時期である「12月」との回答が56.4%と半数を超えた。前年調査（43.6%）よりも12月の集中度が増し、1月までを合計すると74.1%と7割を超える。昨年は7割を超えたのは2月だったので、約1カ月早まったことになる。就職先が決まった学生の多くは、かなり早い時期から志望していた企業を中心に就職活動を展開し、内定に至っている様子が見える。企業としては、早期に動く意欲の高い学生に出会う機会を逃さないためにも、早めの情報公開が望ましいと考えられる。



### 8. 就職決定企業を知ったきっかけ

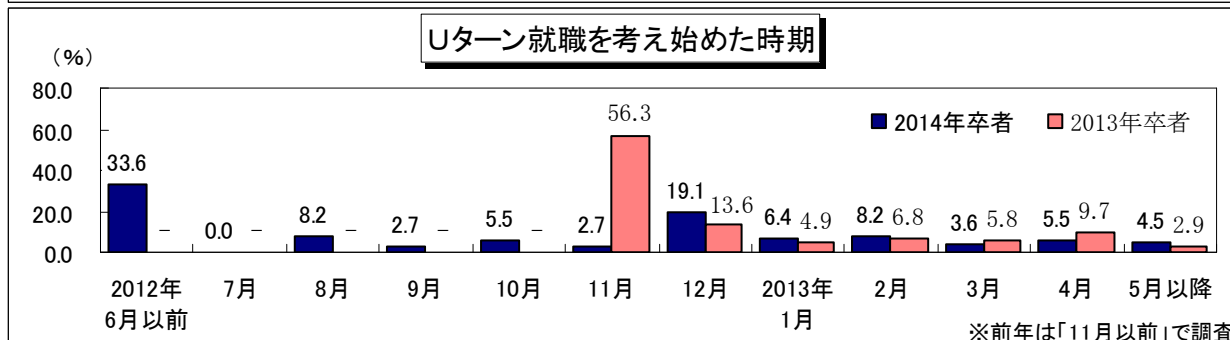
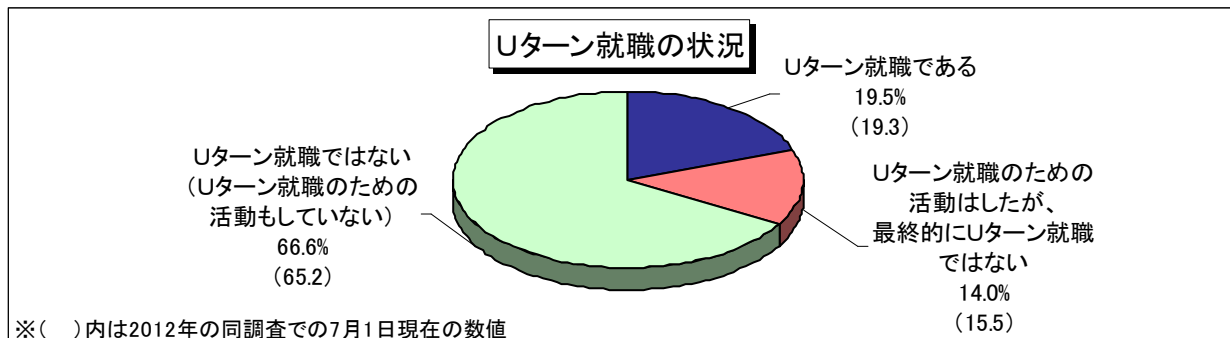
就職決定企業を知ったきっかけについて尋ね、「就職活動以前から知っていた」と答えた者（24.9%）を除いて再集計した。その結果、「就職情報サイト」が42.9%と圧倒的に多く、学生にとって「就職活動の入り口」として機能していることが分かる。また、「学内企業説明会」（11.4%）、「合同企業説明会」（10.3%）をあわせると2割強（21.7%）となり、イベントの持つ影響力の強さがうかがえる。





### 9. Uターン就職の状況

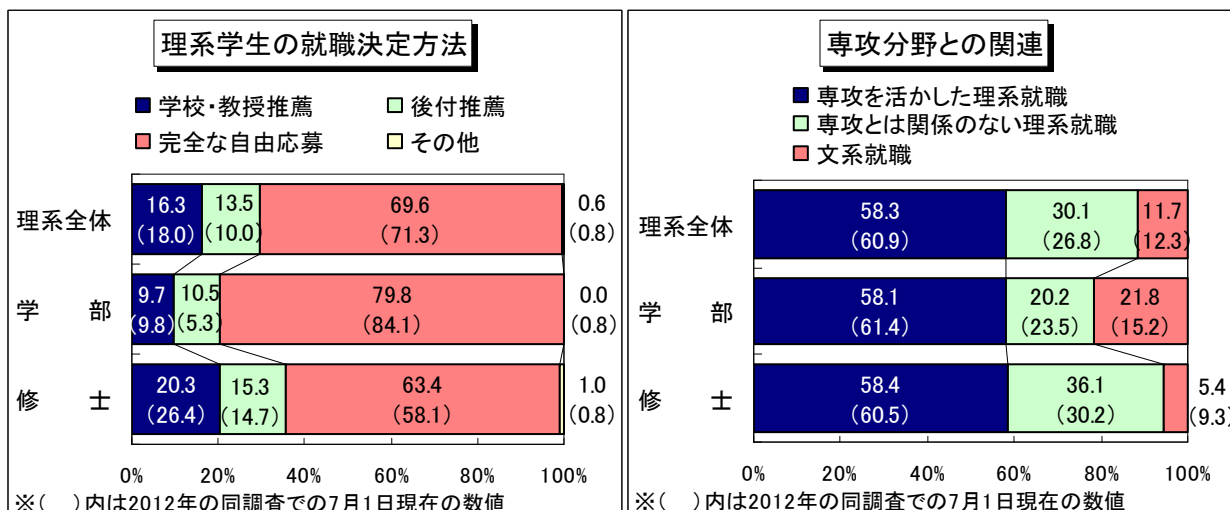
就職活動終了者のうち、出身地・親元を離れて生活している学生に、Uターン就職かどうかを尋ねた。Uターン就職者は19.5%で前年とほぼ同率だった。Uターン就職について考え始めた時期は、「2012年6月以前」が33.6%で最も多く、かなり早い段階から地元に戻ることを視野に入れていたことが分かる。この傾向は女子において顕著で、文系女子の43.2%、理系女子の54.5%が「2012年6月以前」と回答している。



### 10. 理系学生の就職決定方法

理系学生に対して、就職先決定に至る方法を尋ねた。学部・修士ともに「完全な自由応募」が大半で、学部では79.8%、修士でも63.4%を占めている。推薦の利用は就職環境が好調なときには減る傾向があり、今年は16.3%にとどまった。自由応募で受け推薦状提出を条件に内定を受ける「後付推薦」は13.5%で学部・修士とも増加しており、企業の囲い込みが強まったと考えられる。

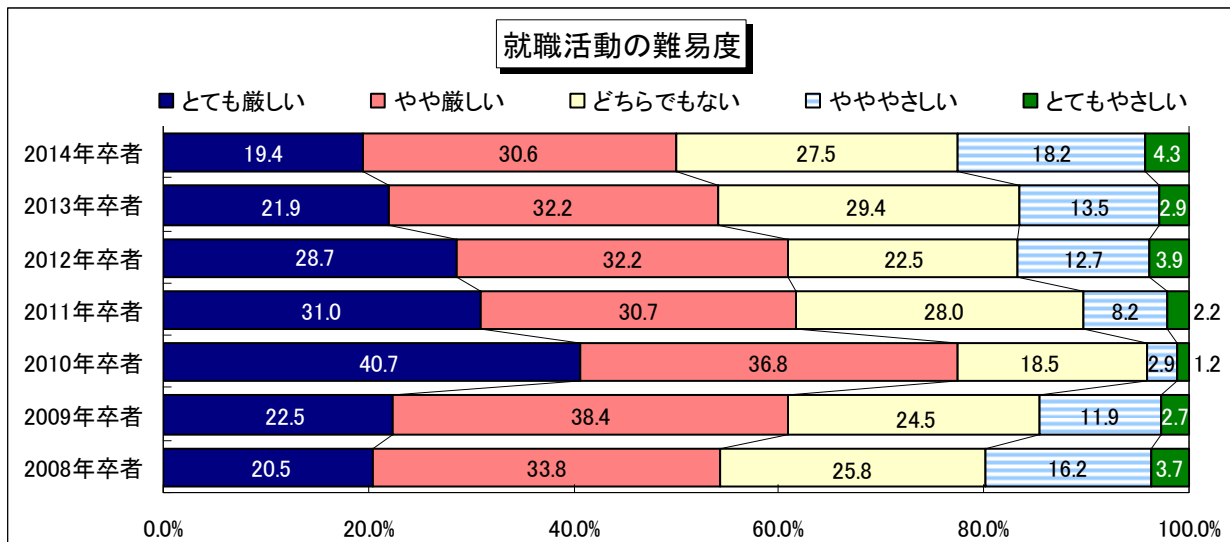
また、専攻分野との関連をあわせて聞いたところ、学部において「文系就職」の割合が増えたのが特徴的である。「専攻を活かした理系就職」は学部・修士での大きな違いは見られなかった。





### 11. 就職活動の難易度

モニター全員に、これまでの就職活動を振り返ってもらった。「とても厳しい」「やや厳しい」の合計が50.0%とちょうど半数。これに対し、「やさしい」の合計は22.5%で、厳しいと感じるほうが2倍以上多い。しかしながら、「とても厳しい」は4年連続で割合を下げている、今年は19.4%と2割を切った。内定率の上昇とマッチした動きであると言え、企業の採用意欲の高さが学生の意識にも影響を与えている。リーマン・ショック前のプチバブルと言われた頃（2008年卒者）と傾向が似ていることは興味深い。



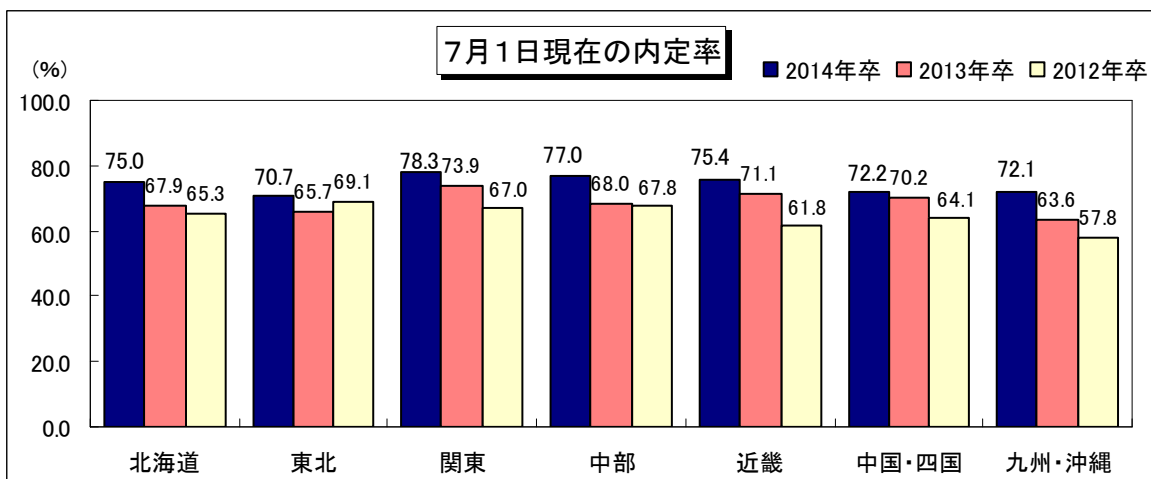
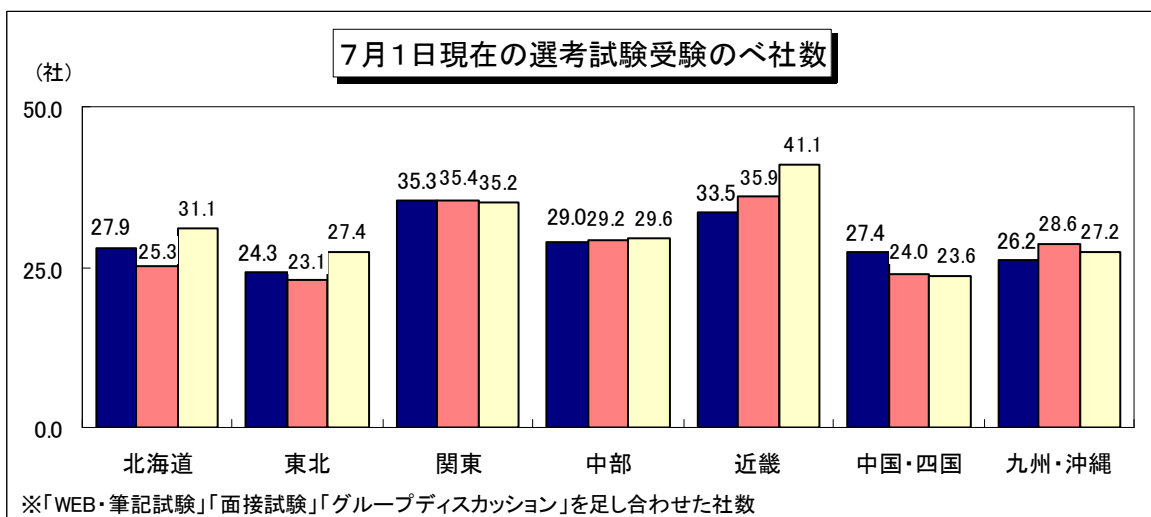
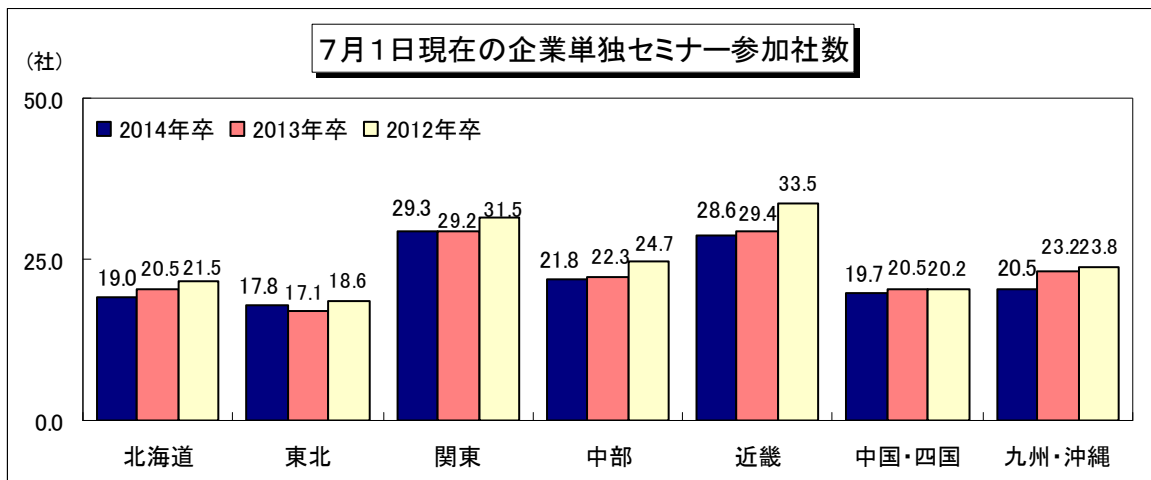
#### ■ 「とても厳しい」「やや厳しい」

- 第一志望の企業に落ちてから、自分が何の仕事をしたのかが分からないまま、漠然と就職活動をしてしまっている。就職活動において気持ちの切り替えが大事だと実感した。 <理系男子>
- 第一志望群の企業がすべて不合格になってしまったことで、とてもショックだった。これから出会う企業をいかに第一志望群に取り込めるかが大事だと考えているが、なかなか簡単ではないと思う。 <文系男子>
- 内定が出ないことも就活の辛さだが、自分は将来何をしたいのか、どうなりたいのかを考えていくことが辛かった。就活の軸がぶれてきてからが精神的に辛かった。 <理系女子>
- 今年は去年よりは良くなっているといろいろな所で聞くが、やはり就職活動は大変だった。第一志望業界からは内定を得られなかった。しかし、納得できるところから内定をもらえたので良かったと思う。 <文系女子>
- 男子に比べ女子の就職活動はまだまだ厳しい。 <文系女子>
- 人生初めての就職活動は、理想とはかけ離れたものになった。しかし、これも運命だと思って頑張って社会人やります。 <文系男子>
- 時間・金銭・精神的なコストが高すぎる。昔の様に推薦等を使ったら容易に就職できる環境が良かった。 <理系男子>

#### ■ 「とてもやさしい」「やややさしい」

- アベノミクスの効果で、経済全体に浮揚感が感じられ始めていたためか、面接の雰囲気など緩やかなものが多かったような気がする。周囲の友人を見ていると、早い時期に内定を得ていた人が多かった。 <文系男子>
- 予想外にたくさん内々定をいただくことができ、内々定をとることが容易だと感じた。 <文系女子>
- あっけなく終わってしまった印象。 <理系男子>
- 周りの友人の多くが就活を終えているので、就職難なんて嘘なのではと感じた。 <文系男子>
- きちんと対策さえしていれば、決して辛いものではないと思った。比較的就職活動自体を楽しめたことが、納得のいく企業に出会えた秘訣だと考えている。 <文系女子>

《参考データ》 大学地域別集計



【回答数】

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
2014年卒	72	75	515	174	272	72	104
2013年卒	56	70	498	169	235	84	88
2012年卒	49	55	433	149	204	78	83